

# 三生医薬 ソフトカプセル製造

ソフトカプセル製造の三生医薬（静岡県富士市）が投資を加速している。国内最大級の工場を稼働させ、海外販売も拡大する。2014年に米カーライル・グループの傘下に入った。技術力のある地方企業と資金力のあるファンドの連携が事業拡大に成果を生む。

## ミドル企業

# きりり

5月に約70億円を投じて静岡県富士宮市に国内最大級のソフトカプセル工場を稼働させた。延べ床面積1万平方メートル、生産能力は従来の1・5倍に相当する年間30億粒。自動倉庫や、工程が進むにしたがって上の階から下の階に移動する「重力に逆らわない設計」（稲

# 研究開発 海外に照準 ■ 機能性素材で需要つかむ



自動倉庫で数千種類の機能性素材の原料を管理する（静岡県富士宮市）

吉紳次（工場長）とする。今村朗副社長は日とで生産性を従来比3割向上。国内の需要増に対応するほか、海外に本格的に輸出を拡大できる生産能力を確保する。同社によると、ソフトカプセルの受託製造で国内シェアの24%を占める。海外売上高は年率2ケタペースで拡大しており、現在の30億円台から3年後に50億円にまで引き上げる。

成長のきっかけになったのはカーライルの傘下に入ったこと。国内ではソフトカプセル製造の大手だったが、海外事業の本格的な成長につながった。「海外展開にファンDの支援が得られる」（松村誠一（会長））ためだ。幹部にも海外展開や研究開発に知見を持つ人材を招き入れた。松村誠一郎会長はGEヘルスケア

出身。今村朗副社長は日本マクドナルドHD執行役員を経験した。幹部クラスには同業、異業種で経験を積んだ人材がずりとはび。同社には海外拠点はなく、海外事業の成長はファンドの支援と海外で営業できる人材がカギを握っている。今後の成長分野として見据えるのは植物性のソフトカプセルや機能性素材の研究開発だ。植物性のソフトカプセルはハラル対応や、健康的なイメージから海外で需要が高まっている。ただし、現状主流となっていない海藻由来の「カラギーナン」と呼ばれる物質は、発がん性が指摘される。三生医薬はカラギーナンに代わる新素材を海外の展示会で発表。引き合いを得ているという。一方、機能性素材の研究（静岡支局 中村雄貴）

### 《三生医薬の会社概要》

- ▽本社 静岡県富士市
- ▽事業概要 ソフトカプセルの製造
- ▽設立 1993年11月
- ▽従業員 700人
- ▽売上高 約 215億円

（2017年12月期）